学校法人國學院大學

令和８年度
事業計画書

KOKUGAKUIN Univ.

事業計画書作成にあたって

本法人は、「伝統に立つ改革、そして未来へ」というテーマのもと、「創立150周年に向けて、法人組織を強化するとともに、絶えず変化する環境に対応できる人材を積極的に養成し、社会に貢献する学校法人を目指す」という基本方針に則り、大学をはじめとする法人各設置校は将来像と教育目標を定め、その実現に向けた戦略への取り組みを始めてから５年目を迎えました。本年は今期計画の最終年となります。

各設置校の進捗状況を見ますと、最初の２年間こそ体制作りに費やされた部分が大きかったものの、策定した戦略毎に前年度までの達成度を検証評価し、５年後のあるべき姿に近づけるべく、具体的な施策に着手してきました。

最終年である本年は、例えば、大学の「建学の精神に基づく、日本を学ぶ体系的なカリキュラムや研究を推進する環境の整備」という戦略は、「日本と日本文化に関する研究成果、学術資産の教育への還元」という施策が、また北海道短期大学部の「学生募集の強化」という戦略は、「幼児保育コースの募集強化策の実施」という施策が、国学院高等学校の「高い英語力獲得による、大学進学実績と学校生活の満足度向上」という戦略は、「通常の英検講習に加え、個々の実力や必要に応じた英検対策講座の実施」という施策が、国学院大学久我山中学・高等学校の「中高一貫教育におけるメリットの最大化」という戦略は、「国公私立難関大学への進学実績向上を目指す指導の実施」という施策が、国学院大学附属幼稚園の「豊かな体験を通じた、環境に主体的に関わる資質・能力の向上」という戦略は、「法人連携プログラムの定例化とネットワークの活用」という施策が、国学院幼稚園の「国学院ブランドの確立と地域社会および保護者への周知」という戦略は、「預かり保育の多様化」という施策が計画されております。

私どもは、今年度も財務計画に裏付けされた将来像の実現に向けて努めてまいりますので、本事業計画書をご覧いただいた皆様方のご指導ご鞭撻ならびにご支援を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

学校法人國學院大學
理事長 佐柳　正三

目　次

01　事業計画書作成にあたって

03　学校法人國學院大學 令和８年度事業方針

04　学校法人國學院大學 DX推進計画

05-08　国学院大学
（学長あいさつ／将来像＆教育目標／戦略／行動計画）

09-12　国学院大学北海道短期大学部
（学長あいさつ／将来像＆教育目標／戦略／行動計画）

13-16　国学院高等学校
（校長あいさつ／将来像＆教育目標／戦略／行動計画）

17-20　国学院大学久我山中学・高等学校
（校長あいさつ／将来像＆教育目標／戦略／行動計画）

21-24　国学院大学附属幼稚園
（園長あいさつ／将来像＆教育目標／戦略／行動計画）

25-28　国学院幼稚園
（園長あいさつ／将来像＆教育目標／戦略／行動計画）

29-30　予算概要

31　施設・設備関係主要事業

※各校の「現在の指標」は、事業計画書作成段階のものになります。

学校法人國學院大學 令和８年度事業方針

法人の基本方針

創立150周年に向けて、法人組織を強化するとともに、絶えず変化する環境に対応できる人材を積極的に養成し、社会に貢献する学校法人を目指す。

基本方針の達成に向けて

教育研究の推進

Ⅰ 「日本」を知る 教育研究の推進と発信

建学の精神に基づき、「日本」を究めるための教育研究を推進し、広く世界に向けて発信する。

Ⅱ 共生社会を支える 人材の育成

他者を理解し、尊重したうえで、共生社会を支える人材を育成する。

絆と誇りの涵養

Ⅰ 法人組織・仕組みの強化

諸施策の策定、管理運営には、法人内外より多様な人材を登用するとともに、外部の識者の知見を取り入れ、法人運営を行う。また、DXも活用して法人内連携を進め、法人組織の改革と強化を図る 。

Ⅱ 教育研究環境の充実

教育研究を推進するためにDXを活用し、諸環境の整備と充実を図る。

法人の事業計画

現行の中期５ヵ年計画における目標は、６つの設置校が掲げるそれぞれの目標を達成することです。令和８年度は、中期５ヵ年計画の最終年にあたることから、法人基本方針のもと、ガバナンスの強化、DXの推進、その他個別施策の視点で法人各設置校の目標達成に向け支援してまいります。加えて、コンプライアンスやリスクマネジメントなどの法人各設置校をまたがる課題についても取り組んでまいります。
また、学校法人國學院大學の次期中期５ヵ年計画の策定に向け、法人各設置校における計画策定を積極的に支援することに加え、社会環境変化に対応すべく、学校法人國學院大學独自の計画も策定してまいります。

機関名	ガバナンスの強化	DXの推進	その他個別施策	次期中期5ヵ年計画策定支援
国学院大学	○	○	○	○
国学院大学北海道短期大学部	☆	☆	◎	☆
国学院高等学校	○	○	○	☆
国学院大学久我山中学・高等学校	○	○	○	☆
国学院大学附属幼稚園	☆	◎	○	☆
国学院幼稚園	☆	◎	◎	☆

凡例）　☆：積極的支援　◎：要請に応じる支援　○：計画進捗の共有

学校法人國學院大學 DX推進計画

「デジタル」を活用した、新たな価値創造へ向けて

Ⅰ．体系的なデジタル化

目標：システム等の整備による全体最適化

効果：個別最適化を目的とした各システムを各組織内全体で把握・管理・運用し効率化・持続性を担保

次のアクション：
①現状把握とマッピング
②システム体系整備

Ⅱ．法人連携を強める

目標：デジタルを前提とした組織間連携

効果：システムを可視化し、法人全体での運用・管理を行うことで、連携強化と効率化を推進

次のアクション：
①統合と切り分け
②法人間連携業務精査

Ⅲ．効率・効果の追求

目標：各分野の効率化と新たな価値創造

効果：業務の効率を上げ、負担を軽減し、時間的余裕の確保と各分野による新たな施策の展開

次のアクション：
①基本的事項の統合
②現状課題解決と発展

組織

◆デジタル化前提の組織構築と連携強化
⇒個別最適化から全体最適化へ

○取組施策
・情報戦略室によるガバナンス強化
・全体最適化へ向けた法人DX推進会議の運用

教育

◆教育現場における設備等充実とICT支援
◆IT・AI人材育成と必要支援体制の構築

○取組施策
・教育現場の ICT 設備等把握と充実化の継続
・IT、AI 人材育成、教育力強化に向けた施策の展開
・教学系 IR の推進とエンロールマネージメントの検討

研究

◆学術情報の体系的管理と公開によるブランド構築

○取組施策
・オープンアクセス義務化対応を契機とした研究資産、研究成果・学術資産の体系的管理
・研究力強化支援のためのシステム構築

施設・学生生活

◆インフラ面の将来計画とスマートキャンパス構想

○取組施策
・インフラ関連の財務分析と将来的更新計画の策定
・ITを活用した学生環境整備計画と実行

業務

◆事務局全体の業務改革と効率化、持続性の担保
◆DX・IT・AI人材育成強化

○取組施策
・事務部門における業務改善、改革の推進
・教職員ポータルの構築による効率化推進
・法人全体での法務 AI の導入
・DX、IT、AI 人材育成推進に向けた体制強化
・若手職員による「DX ワーキンググループ」の発足

情報公開

◆データの体系的管理と活用
データドリブンによる施策展開とIR推進

○取組施策
・統合データベースの早期構築と運用設計
・教学 IR の推進と情報公開によるブランド構築
・データ活用による施策策定と実行に向けた環境構築

国学院大学

現計画の達成度を検証し、次の５年後を見据える

中期５ヵ年計画（第５次）の最終年度は、当初に想定した「達成後の姿」や最終評価指標の到達状況を検証し、次の５年後の新たな目標設定を図ります。カリキュラムが整備されつつあることを踏まえ、戦略１の施策である学部・大学院の再編の一環として、学士・修士５年修了プログラムの実現に向けた検討を始めます。学部横断的な研究を推進するプラットフォームを強化すべく、研究開発推進機構を再編します。戦略４については、評価指標の多くが達成済みであることから、国内外のネットワークのさらなる充実を図ります。

針本　正行
国学院大学学長

将来像

知の創造。日本をみつめ、未来をひらく

大学は、単なる知識の伝達の場ではなく、教員と学生、学生と学生とが共に学び合い、学生の知を日々新たにするとともに、既存の知を問い直し、知を創造する場です。本学は、未来の共生社会を創り出す人材を育成し、これまでの知の蓄積を踏まえて、物事の本質を究め、日本の淵源に思いをいたし、未来をひらく大学となります。

教育目標

「問い直す」「学び合う」「共に生きる」

将来像実現に向けた戦略

学生等関係者の視点

戦略 1　共生社会を創り出す人材の輩出

戦略 2　さまざまな背景を持った学生・教職員が共に学び合えるキャンパスの実現

教育・研究プロセスの視点

戦略 3　建学の精神に基づく、日本を学ぶ体系的なカリキュラムや研究を推進する環境の整備

戦略 4　大学を中心とした多様なネットワークの構築

構成員の自覚と向上の視点

戦略 5　教職員の多様性の確立と、働きやすい職場の実現

戦略 1

共生社会を創り出す人材の輩出

戦略達成のストーリー

多様性や共生社会をテーマとした研究を学部横断的に行うプラットフォームを構築し、それに基づく体系的なカリキュラムを整備するとともに、低学年次からのキャリア支援により、共生社会を担う人材を輩出する。

現在の姿

[教育の質] 多様性や共生社会に関する科目の履修環境の整備を継続的に進めている。
[研究・教育] SDGsを建学の精神から考察する研究活動の成果について、共通教育プログラムや公開研究会などを通じて学生や社会に還元している。
[キャリア支援] 社会との接点を多く持つため、インターンシップ参加に向けた取り組みを強化している。

現在の指標

多様性や共生社会に関する科目の履修率：**25.0**%
多様性や共生社会に関する科目数：**25** 件
3年次夏期休暇終了までのインターンシップ参加率：**70.7**%

本年（令和8年）度の施策

- □多様性や共生社会を考える教育の推進と実践
- □新たな共通教育カリキュラムの運用
- □ DXも活用した学内連携による学生支援
- □低学年時からのキャリア支援の推進
- □学部・大学院の再編と新学部・新研究科等の検討
- □「建学の精神」に基づく多様性や共生社会に関する研究の推進と研究成果の教育への還元、および研究成果に基づく社会貢献の推進

達成後の姿（令和8年度）

[教育の質] 多様性や共生社会に関する体系的な学びによって、学生が共生社会を創り出せる素養を身につけた人材に成長している。
[研究・教育] 多様性や共生社会に関する研究基盤とプラットフォームが整備され、学部横断的な研究が促進している。研究成果が体系的なカリキュラムに応用されるとともに、社会への還元も進んでいる。
[キャリア支援] 多くの学生が2年次までに希望進路を決定できている。

最終評価指標（令和8年度）

多様性や共生社会に関する科目の履修率：**100**%
多様性や共生社会に関する知識が身についた（アンケート）：**70**% 以上
3年次夏期休暇終了までのインターンシップ参加率：**70**%
研究成果および社会貢献の成果に関するパブリシティ：**10** 件（年間）

戦略 2

さまざまな背景を持った学生・教職員が共に学び合えるキャンパスの実現

戦略達成のストーリー

留学生や社会人の受け入れを積極的に推進するとともに、DX構想を進め、時間的、空間的制約を受けない学修の場や学び合う機会を提供する。出自や文化的背景、思考様式の異なる他者と学び合うことで、多様性の理解を促しながら、共生社会で生きていく術を身につけ、新たな知を創造するキャンパスを実現する。

現在の姿

[留学生・社会人] 外国人留学生の受験者数、合格者数がともに増加した。社会人の受け入れ戦略は大学院を中心に強化している。
[学びの場] 観光まちづくり学部が初めての卒業生を輩出した。
[DX/ICT] 教学IRとしてのデータ整備や基盤システムの構築が進んでいる。

現在の指標

外国人留学生比率：**0.35**%
社会人学生比率：**0.11**%
海外協定校：**37** 校
海外招聘研究者：**9** 人

本年（令和8年）度の施策

- □多様な背景を持った学生の積極的な受入れ
- □大学院におけるリカレントコース、長期履修制度の検証と改善
- □学術成果の国際的発信の推進
- □ 2学部体制によるたまプラーザキャンパスの活性化
- □ DXを活用した新しい教育研究への変革
- □ DXも活用した新たな学習環境の検討・整備
- □新たな教育支援・相談体制の確立と、幅広い支援の実施

達成後の姿（令和8年度）

[留学生・社会人] 留学生や社会人の受け入れ方針が策定され、積極的な受け入れによって学生の多様化が進行している。
[学びの場] 学生や教職員の新たな知の獲得や理解、そして知の創造にキャンパスがその役割を果たしている。たまプラーザキャンパスでは2学部の学生交流が活発に行われている。
[DX/ICT] DXの推進によって、リアル空間だけではなくヴァーチャル空間も活用した学び合いの場を提供している。

最終評価指標（令和8年度）

外国人留学生比率：**2**%
社会人学生比率：**1.5**%
海外協定校：**30** 校
海外招聘研究者：**10** 人
ラーニングコモンズ等の利用者：**2,500** 人（全学生の 25%）

戦略 3 建学の精神に基づく、日本を学ぶ体系的なカリキュラムや研究を推進する環境の整備

戦略達成のストーリー

日本と日本文化に関する研究の蓄積を生かし、機構と学部の横断的な研究へ発展させ、その成果を教育に還元していく。さらに、共通教育科目を中心に日本を体系的に学ぶカリキュラムや仕組みを整備し、建学以来、日本に関する教育研究を推進してきた本学の特長をより強固なものにしていく。

現在の姿

[教育の質] カリキュラム整備や組織改編の前提となる規程などの整備を進めている。
[研究] 研究開発推進機構を中心に、神道・日本文化研究を中核とする学部横断型の大規模共同研究に取り組んでいる。
[社会貢献] 公開講座の開講分野やオンライン講座を拡大して、国学院大学が持つ学術資産の発信を強化している。

現在の指標

日本を学ぶ体系的なカリキュラムの構築：**構築に向け検討中**

日本をテーマとした学部横断的、組織的な研究基盤：**着手課題１件**

公開講座参加者：**3,126**人（令和8年1月末現在）

博物館来場者：**58,568**人（令和8年1月末現在）

本年（令和８年）度の施策

- □日本を学ぶカリキュラムに関する学術成果の検証
- □学部改組の検討
- □日本と日本文化に関する研究成果、学術資産の教育への還元
- □日本と日本文化に関する学術成果の社会への還元
- □『国学院大学 150 年史』編纂作業
- □ DX 等を活用した研究成果、学術資産の積極的発信

達成後の姿（令和８年度）

[教育の質] 日本を学ぶための体系的なカリキュラムが構築され、すべての学生が履修できる体制を提供している。
[研究] 日本をテーマにした研究が学部横断的に展開され、その成果をカリキュラムのみならず、講演・講座等を通じて社会への還元もなされている。
[社会貢献] 日本をテーマにした研究が国際的に発信されることで、日本に関する教育研究を推進する大学としての価値が向上している。

最終評価指標（令和８年度）

日本を学ぶためのカリキュラム履修率：**100**%

日本をテーマとした学部横断的、組織的な研究課題数：**3**件

公開講座参加者：**2,000**人

博物館来場者：**80,000**人

戦略 4 大学を中心とした多様なネットワークの構築

戦略達成のストーリー

これまで進めてきたさまざまな連携をさらに拡大し、教育機関、企業、地域や官公庁などとのネットワークを構築する。互恵的な事業を展開することで、相互に固有の価値が形成され、高められていくような取り組みをしていく。さらに国際的なプロジェクトの推進など、グローバルネットワークの構築も行う。

現在の姿

[学びの場] 渋谷とたまプラーザの各キャンパスで、地元地域や企業との協定に基づく連携事業が活発に行われている。
[産官学連携] 各学部などで始めた産官学連携の取り組みを踏まえて、大学全体での包括連携協定の締結数が増えている。
[協定校連携] 既存の協定校向けの大学紹介機会を拡大し、入学者数の増加を図っている。

現在の指標

協定企業：**11**社

協定校：**12**校

産官学連携事業：**19**件

ホームページ（英語）ページビュー：**42,839**件（令和８年1月末現在）

協定締結地域：**19**地域

本年（令和８年）度の施策

- □キャンパスが所在する地域との連携強化（渋谷・たまプラーザ）
- □各種連携事業の成果検証
- □地域連携・社会貢献に関するイベントの推進
- □国内外協定校（大学・高校）の拡大
- □国際的プロジェクトの推進
- □連携成果のグローバルな発信に関する検証と改善

達成後の姿（令和８年度）

[学びの場] 両キャンパスが所在する渋谷区および横浜市との連携がさらに強固なものとなって、お互いの価値向上に貢献している。
[産官学連携] 協定に基づく具体的な事業が複数実施されて、本学中心のネットワークが構築されている。事業の成果がグローバルに発信され、社会への還元がなされている。
[協定校連携] 協定校が増加し、本学の理念・目的を理解した高校生を安定的に受け入れる体制が整っている。

最終評価指標（令和８年度）

協定企業：**10**社

協定校：**10**校

産官学連携事業：**10**件

ホームページ（英語）ページビュー：**50,000**件

協定締結地域：**12**地域

戦略 5

教職員の多様性の確立と、働きやすい職場の実現

戦略達成のストーリー

採用方針の策定や職場環境の整備により、女性教員比率や若手教員比率を向上させる。事務局組織においては、規模を新学部設置に合わせて拡大し、法人全体で進めているDX構想やオンラインの活用により業務効率を上げ、教育・研究・管理運営支援の機能を強化する。職場環境の計画的な改善により多様性を尊重した活力ある組織を構築していく。

現在の姿

[組織運営] 大学事務局長の特命により人事制度の見直しを進めており、令和8年度から新たなルールの運用を開始する。
[DX] 学内事務のWEBシステムへの移行やペーパーレス化を順次進め、業務全体の合理化・省力化を図っている。

現在の指標

女性教員比率：全体 **26**%
（教授 21%、准教授 33%）
若手（39 歳以下）教員比率：**9**%
就業満足度（職員）：**70**%
学位（博士）保有率：**60.9**%
超過勤務時間数：約**15.3**時間/月（令和8年1月末現在）

本年（令和８年）度の施策

□戦略的な人事計画に基づく募集（教員組織、事務局組織）
□女性教員、若手教員の採用に関する検証と見直し
□出産・育児・介護関連サポートの充実
□若手研究者の就職支援の強化
□ DXを利用した業務の効率化
□オンラインを活用した働き方改革の推進

達成後の姿（令和８年度）

[組織運営] 戦略的な人事計画とDXの成果が、教育や研究、そして管理運営の支援強化に貢献している。個々のライフサイクルに応じた支援や制度によって、構成員の多くが働きやすい環境であると実感できる組織になっている。働きやすい環境の整備が、多様性のある組織づくりに貢献している。
[DX] DXの推進成果により、教職員が働きやすい職場環境だと感じ取れることに貢献している。

最終評価指標（令和８年度）

女性教員比率：全体 **30**%（教授 25%、准教授 35%）
若手（39 歳以下）教員比率：**20**%
就業満足度（職員）：**88**% 以上
学位（博士）保有率：**57**%
専任教員に対する専任職員比率：**80**%
超過勤務時間数：約 **12** 時間 / 月

国学院大学 北海道短期大学部

５ヵ年計画の完遂に向けて

現在の中期５ヵ年計画は、学生がそれぞれの地域で活躍できる人材となれるように育成することを目標に、地域活性化に貢献する短期大学を目指しています。その目標および将来像を実現するために、５つの戦略と各戦略のための行動計画を推進してきました。令和８年度は、中期５ヵ年計画の完成年度にあたることから、完成目標値の達成に鋭意努めてまいります。大学は常に教育の質の保証を求められており、現在の戦略に通底するものはこの教育の質の保証を多角的かつ多様な形で強化するものです。その実現に最善の努力をいたします。

平野　泰樹
国学院大学
北海道短期大学部学長

将来像

地域活性化に貢献する短期大学部となる

少人数教育のメリットを最大限に生かせる教育体制の強化、地域と連携した教育体制の再構築、キャリア支援の質的量的向上、および北海道内全域からの募集強化を柱として、卒業後はそれぞれの地域社会で活躍し貢献できる人材を育成する短期大学部となることを目指しています。

教育目標

地域で活躍し貢献できる人材を育成する

将来像実現に向けた戦略

学生等関係者の視点

戦略 1　キャリア強化による地域で活躍できる人材の輩出

教育・研究プロセスの視点

戦略 2　教育の質を保証する仕組みの強化

戦略 3　地域活性化に向けた多様な取り組みの推進

戦略 5　学生募集の強化

構成員の自覚と向上の視点

戦略 4　新システムの導入と研修による、きめ細かい個別指導の実施

戦略 1

キャリア強化による地域で活躍できる人材の輩出

戦略達成のストーリー

学生の進路選択の質（希望とのマッチング）を向上させ、進路の多様性に対応した施策を講じる。就職では、インターンシップ受け入れ先をさらに拡大するとともに、企業との関係構築を強化。公務員試験対策では、新たな取り組み（選抜試験、奨学金、公務員試験対策講座）により合格者の増加を目指していく。

現在の姿

[キャリア支援] 正課にキャリア支援科目を拡充し、学生の就職活動状況を担当教員が把握・助言しやすいようにしている。就職対策に公務員試験対策講座をTACと提携し実施している。結果、各自治体の公務員試験に着実に合格している。就職および編入学の支援には、キャリアセンターと連携し全教職員があたっている。
[教育の質] 基礎学力を強化する施策が求められることから、さらなる向上を目指し、検討し続けている。

現在の指標

キャリアセンター人員体制：**1** 人
公務員希望者選抜入試：**令和7年度入学生1**人
観光まちづくり学部への編入学制度整備：**課題対応中**
インターンシップ受け入れ企業開拓：**3** 社
パブリック・インターンシップ：**8** 人

本年（令和８年）度の施策

□キャリアセンターの機能充実・強化、企業との関係構築、インターンシップの質的強化
□公務員希望者選抜入試制度の検証と改善
□公務員試験対策講座、パブリックインターンシップの検討・実施
□編入学対応科目強化策の実施
□観光まちづくり学部への編入学実施

達成後の姿（令和８年度）

[キャリア支援] キャリアセンターの機能拡充と全学的な体制の確立によって、学生が一般就職や公務員就職、そして編入学といった多様な進路を選択・実現できている。国学院大学観光まちづくり学部への編入学環境が整備され、学生にとって新たな選択肢が増えている。
[教育の質] 基礎学力の向上によって、学生が希望する編入先への進学がスムーズに進行している。

最終評価指標（令和８年度）

キャリアセンター人員体制：**3** 人
公務員希望者選抜入試入学者：**10** 人
観光まちづくり学部への編入学制度：**開始**
インターンシップ受け入れ企業開拓：令和 **5** 年度＋ **18** 社
パブリック・インターンシップ：**15** 人

戦略 2

教育の質を保証する仕組みの強化

戦略達成のストーリー

全学的な自己点検・評価体制を構築。認証評価で用いられる「内部質保証ルーブリック」に基づく自己点検・評価を行い、学修成果と３つのポリシーの検討・見直しを促進する。それらに伴うカリキュラムの改定を適宜行うとともに、ICT環境を整備し教育の質の保証を促進していく。

現在の姿

[教職員組織] 教員の世代交代に伴い自己点検・評価を適切に行うことのできる人材を育成し、認証評価に備え継続的に取り組む体制に向け推進している。
[教育の質] カリキュラムマネジメントについて教養科目を中心に進めている。
[DX/ICT] ICT 環境の整備によるさらなる教育の質向上が求められている。法人間連携の一環として教職員の勤怠管理システムの導入を決定した。

現在の指標

新たな自己点検・評価体制の構築進捗率：**90**%
学修成果と３つのポリシーの見直しと改定進捗率：**100**%
ICT 環境の整備進捗率：**90**%

本年（令和８年）度の施策

□認証評価報告書作成開始
□改定カリキュラムの実施・見直し
□ ICT環境の整備・活用・検証

達成後の姿（令和８年度）

[教職員組織] 教員の世代交代に伴う新たな自己点検・評価体制が構築され、全学的な評価活動と評価報告書作成の取り組みができている。
[教育の質] ３つのポリシーおよびカリキュラムの改定が行われ、各施策にも反映されている。教養科目では多様性が維持され学生に提供されている。
[DX/ICT] 教学に関わるICT環境の整備が完了し、教育の質向上や法人間連携に貢献している。

最終評価指標（令和８年度）

新たな自己点検・評価体制の構築：**完了**
学修成果と３つのポリシーの見直しと改定：**完了**
新たな方針に基づくカリキュラムの改定：**完了**
ICT 環境の整備：**完了**

戦略 3 地域活性化に向けた多様な取り組みの推進

戦略達成のストーリー

授業を市民に開放することで生涯学習機能を高めていく。また、地域活性化をテーマにした教養科目を開設し、国学院大学観光まちづくり学部の協力を得て、地域活性化人材の育成を行う。同時に短大部、滝川市、国学院大学観光まちづくり学部が三位一体となった“まちづくりプラットフォーム”を構築し、地域活性化を促進していく。

現在の姿

[社会・地域貢献] 市民が受講しやすい学習の形を提供することや、本学が社会的な役割を果たしていくために行政や経済界とともに地域活性化の仕組みづくりを、第三者からの意見を踏まえつつ検討している。
[教育の質] 観光まちづくり学部の研究・実習先として、滝川市が活用されている。地域や観光まちづくり学部とともに連携・協力体制の構築を進めている。

現在の指標

聴講生制度の整備：**令和７年度実施**（講座数の増加）
まちづくりプラットフォーム：**市・商工会議所・短大部で組織する三者連絡協議会の活用**
地域活性化カリキュラムの構築：**一部運用開始**

本年（令和８年）度の施策

- □聴講生制度の運用
- □短大部、滝川市、滝川商工会議所、観光まちづくり学部によるプラットフォームづくり
- □観光まちづくり学部の教員とのオムニバス授業の展開

達成後の姿（令和８年度）

[社会・地域貢献] 本学が高等教育機関の役割として、聴講生制度による授業科目の開放が行われ、市民の自己実現に貢献できている。短大部、滝川市、国学院大学観光まちづくり学部の協働によるまちづくりプラットフォームが完成し、地域活性化を促進する新たな取り組みが展開している。
[教育の質] 地域活性化をテーマにした教養科目（座学と演習）に、国学院大学観光まちづくり学部の教員が参画している。

最終評価指標（令和８年度）

聴講生制度の整備：**完了**
まちづくりプラットフォーム：**完成**
地域活性化カリキュラムの構築：**完了**

戦略 4 新システムの導入と研修による、きめ細かい個別指導の実施

戦略達成のストーリー

学生カルテによる学生情報の一元化を推進し、積極的に活用した個別指導を強化していく。また、自分の学業や課外活動、地域活動、就職活動の状況などをいつでも閲覧できるポートフォリオおよび授業の重点や成績評価を可視化するルーブリックを導入することで、学修意欲の向上に役立て、学修成果の向上へとつなげる。

現在の姿

[学生生活支援] 個別指導による学生支援を強化するため、学生情報の一元化によるシステムを運用している。また、システムを活用して個別指導を記録し退学者対策としている。
[教育の質] 学生の学修意欲をより高めるため、授業の評価基準や成績評価を可視化するルーブリックを用いた科目の数を増加するなど、引き続き検討している。

現在の指標

学生カルテ活用：**100**%
ルーブリック活用：**専任教員での活用を再検証**
退学率：**3.41**%（令和8年2月末現在）
ポートフォリオ活用：**75**%

本年（令和８年）度の施策

- □学生カルテの活用・検証
- □ポートフォリオの活用・検証
- □ルーブリックの導入・実施・検証
- □退学者減少策の再検討

達成後の姿（令和８年度）

[学生生活支援] 一元化した学生情報を活用した個別指導が、学修成果の質的・量的な獲得につながっている。ポートフォリオの活用が学生自身の学修状況や不足点の自覚を促し、個別指導の受け入れにつながっている。
[教育の質] ルーブリックの導入による授業の重点や成績評価の可視化が、学生の学修意欲向上に貢献している。退学率が３％以下になっている。

最終評価指標（令和８年度）

学生カルテ活用：**100**%
ルーブリック活用：**100**%
退学率：**3**%以下
ポートフォリオ活用：**100**%

戦略 5

学生募集の強化

戦略達成のストーリー

キャリアセンターの機能を拡充し、学生が希望する職種や企業への就職を促進することで「道内出身者の募集強化」へつなげる。また、幼児保育コース専用の奨学金制度を積極的に活用するとともに、幼稚園教諭や保育士の人材確保に苦慮している自治体と授業料分担に向けた連携を進め、幼児保育コースの入学者増加を図る。

現在の姿

[学生募集] 令和６年度よりinfoクラウドを活用し、入学希望者の情報が共有されている。学生募集のための情報を共有することにより効率化を図り、安定的な入学者確保につなげる仕組みを活用した。幼児・児童教育学科を学びと就職の両面から支援し、地域から必要とされる人材養成機関として、社会ニーズに応じた地域人材の輩出に努めている。

現在の指標

道内出身入学者：**66** 人
幼児保育コース入学者:**10**人（令和8年2月末現在）
公務員希望者選抜入試入学者：**0** 人
企業への就職希望者：**41** 人
公務員試験対策進捗率：
講座開設３年目
開設２年目は公務員４人実績
（市町村行政職・公務員保育士含む）

本年（令和８年）度の施策

□高等学校への入学者・卒業生の情報提供強化

□幼児保育コースの募集強化策の実施（道内高等学校・道内自治体との連携促進）

□キャリアセンターの機能強化による就職支援の推進

達成後の姿（令和８年度）

[学生募集] 在学生や卒業生の姿が高校教員や高校生に届き、道内からの入学者数が増加している。
[キャリア支援] 独自の奨学金制度や自治体との連携による就職実績が、志願者の安定的な確保に貢献している。道内自治体や企業との関係拡大や強化によって、学生が希望する就職先への進路決定数が拡大し、特に幼児保育人材を望む道内自治体のニーズを満たしている。

最終評価指標（令和８年度）

道内出身入学者：**100** 人以上
幼児保育コース入学者：**40** 人以上
公務員希望者選抜入試入学者：**10** 人
企業への就職希望者：**50** 人以上

国学院高等学校

理念を基に、未来を志向する

前年度に続き都内第一位の志願者数を集めた令和７年度。現状、中期計画達成への各 KPI は概ね順調と捉えています。

重要な指標のひとつである「国学院大学への無試験推薦入学者中の英検２級以上取得者」は 94.7%となり、最高値を更新しました。

令和８年度は幅広く水準を高めます。校長より国学院の教育理念の発信を継続しつつ、セキュリティー強化、バリアフリー推進、年度内短期留学の実現、探究力を高める新シラバス導入、福利厚生の充実他を実施し、生徒・教職員共に未来社会への貢献意識を醸成します。

中村　彰伸
国学院高等学校校長

将来像

自己を実現し、社会貢献する力の基礎を培う学校となる

いま世界には国や地域という枠を超えて直面している問題が幾つもあります。こうした情勢の中、本校は、生徒達が各自の目指す進路を勝ち取り、個々の能力を発揮し、将来社会で活躍することで日本の成長に寄与するとともに、世界の諸問題解決に向けてグローバル社会へ貢献する資質の基礎を培う学校を目指します。

教育目標

「高い専門性の学びにつながる基礎学力」、「幅広い教養・コミュニケーション能力の獲得」、「礼節、協働性、リーダーシップの形成」

将来像実現に向けた戦略

生徒等関係者の視点

- 戦略 1　礼節、主体性、協働性、リーダーシップの体得
- 戦略 2　高い英語力の獲得による、大学進学実績と学校生活の満足度向上

教育・研究プロセスの視点

- 戦略 3　国内・国外の各種研修体制の発展
- 戦略 4　よりきめ細かい指導を可能にする、ソフトとハードの環境整備

構成員の自覚と向上の視点

- 戦略 5　生徒および教職員が安心して過ごせる、環境づくりと危機管理を意識した協力体制の強化
- 戦略 6　国学院高等学校の将来像共有と中学生や保護者への発信

戦略 1

礼節、主体性、協働性、リーダーシップの体得

戦略達成のストーリー

文化祭や体育祭などの行事をはじめ、クラブ、生徒会などの活動推進を、生徒の主体的な運営に任せる。生徒同士が意見を出し合い、議論を交わし、目的の達成や課題を解決していくプロセスを経験することで満足度を高めるとともに、礼節、主体性、協働性、リーダーシップを体得していく。教職員はあくまでアドバイザーの立場で関わる。

現在の姿

[学校生活] 行事では生徒が主体的に計画や運営に関わり、互いの考えを尊重しながら協力して取り組む姿が見られる。研修旅行やクラブ合宿、高大連携授業など校外活動でも自ら判断して行動し、責任と礼節をもって品位ある態度を示している。こうした実践が日常の学習場面にも広がり、仲間と協働して課題に向き合う姿勢が定着しつつある。

現在の指標

文化祭来場者：**10,456** 人
学校行事満足度：**85.9**%
部活動満足度：**71.2**%
部活動加入率：**83.1**%
海外語学研修参加希望者：**149** 人

本年（令和８年）度の施策

□文化祭の内容の充実策立案・情宣
□体育祭の実施種目、実施方法の検討・改善
□部活動環境改善の検討・整備
□海外語学研修の既存コースの改良と新規コースの安定的運用

達成後の姿（令和８年度）

[学校生活] 生徒自身が学校行事や部活動の運営に自ら関わることで、礼節、主体性、協働性、リーダーシップの伸長を自覚できている。本校の生徒が基礎学力のみならず、優れた人間性を兼ね備えているという評価が得られるようになっている。

最終評価指標（令和８年度）

文化祭来場者：**10,000** 人
学校行事満足度：**90**%
部活動満足度：**80**%
部活動加入率：**90**%
海外語学研修参加希望者：**300** 人

戦略 2

高い英語力の獲得による、大学進学実績と学校生活の満足度向上

戦略達成のストーリー

英検受験を奨励するとともに、効果的な講習や学習法を提供し合格率を飛躍的に伸ばしていく。講習内容は実施後アンケートなどを通じて改善を重ね質の向上を図る。また、個人差があるスピーキングやライティングの講座を独自に開講するなど、より満足度の高い継続的な指導を行い、グローバル社会で活躍する人材の育成につなげていく。

現在の姿

[教育の質] 英検対策を軸とした英語学習の成果として、令和７年度は「国学院大学への無試験推薦入学者中の英検２級以上取得者」が94.7%であった。令和８年度の到達目標である卒業時英検取得率95%を引き続き目指していく。
[生徒支援] 英検２級取得者の増加に伴い、上級英検対策を推進し、準１級取得者の増加および大学合格率の上昇を実現できる授業へとつなげていく。

現在の指標

卒業時英検２級取得率：**91.4**% 以上
卒業時英検準１級取得者：**81** 人
大学合格実績
国学院大学：**180** 人　GMARCH：**461** 人
早慶上理：**105** 人　国公立：**15** 人
学校推薦型選抜による大学進学者の英検2級取得率：**99.2**%
学習面満足度：**74.9**%

本年（令和８年）度の施策

□英検準２級以上取得の必須化による効果検証・改善策検討
□英検講習完成度の検証、改善策の立案継続
□通常の英検講習に加え、個々の実力や必要に応じた英検対策講座の実施

達成後の姿（令和８年度）

[教育の質] 本校が求める生徒像について認知と理解が進み、英語力の基礎を固めた中学生に選ばれる高校として評価を受けている。英検受験の推奨と支援が生徒の堅実な英語力を向上させ、多くの生徒が高校生活に高い満足感を抱いている。生徒の英検２級以上取得率が100%に近づいており、個々の生徒が目標達成を実感できている。高めた英語力が生徒の希望する進路実現に大きな役割を果たしている。

最終評価指標（令和８年度）

卒業時英検２級取得率：**95**%
卒業時英検準１級以上取得者：**55** 人以上
大学合格実績
国学院大学：**210** 人　GMARCH：**500** 人
早慶上理：**150** 人　国公立：**25** 人
学校推薦型選抜による大学進学者の英検２級取得率：**100**%
学習面満足度：**80**%

戦略 3

国内・国外の各種研修体制の発展

戦略達成のストーリー

海外語学研修希望者を確実に受け入れられる体制づくりに努め、付加価値の高い研修に仕上げていく。そのために国際教育全体のプランニングを進め、関わる教職員の人材確保と育成を行い、長期的に安定した研修を構築していく。また、生徒の多様な興味に応える新たな国内研修を企画し、充実を図る。

現在の姿

[教育の質] 海外語学研修は、より価値のある研修を企画しているが、参加費用の高騰によりハードルが高い状況である。一方で海外３ヵ月留学には１人が希望し、コロナ禍後、初の参加者となった。国内研修においては、テーマに応じた事前学習と現地での体験学習を通して、自国文化の理解につなげるプログラムをより深化させている。

現在の指標

海外語学研修参加希望者：**149** 人
都内英語研修参加者：**27** 人
海外３ヵ月留学参加者：**1** 人
国内研修への
生徒参加率（１・２年生）：**22.3**%

本年（令和８年）度の施策

□現行の海外研修に加え、ホームステイ型の海外語学研修の安定化
□海外の３ヵ月留学の再開に向けての検討
□現行の国内研修の安定化および新たな研修の追加
□事前学習等を含む研修内容の充実

達成後の姿（令和８年度）

[教育の質] 多様なプログラムと充実した内容が、本校を代表する特色として生徒や社会に評価されている。海外からの研修希望者に対応できる制度が整い、国際教育の充実が図られている。生徒が国内研修で学んだ日本独自の文化に関して活発な議論を展開し、生徒自らが獲得した知見を外部に発信できるようになっている。

最終評価指標（令和８年度）

海外語学研修参加希望者：**300** 人
都内英語研修参加者：**60** 人以上
海外３ヵ月留学参加者：**12** 人
国内研修への生徒参加率：**60**%

戦略 4

よりきめ細かい指導を可能にする、ソフトとハードの環境整備

戦略達成のストーリー

防災と環境に配慮した新校舎建設により、地域社会への貢献とSDGsへの取り組みを行う。また、カリキュラムの再編と生徒のニーズに合った学習指導体制を構築。ICTスキルの向上を図るとともにオンライン授業を増やし、校内に限定されない自由度の高い教育を推進していく。クラブ活動では外部指導員やトレーナーを招聘し、活性化につなげる。

現在の姿

[教育の質] 全教室にICT設備を完備している。令和８年度の選択授業計画も完了している。
[学生生活支援] 部活動指導員と外部指導員には、専門知識のある有識者や競技経験のある非常勤講師などに依頼して活動を支援している。
[学びの場] 校地再開発の準備は、資材高騰等の社会情勢により、現在は静観している状態である。

現在の指標

学習面満足度：**74.9**%
生徒受信端末タブレット保有率：**100**%
外部施設確保：
グラウンド使用のクラブが数ヵ所確保済
一般第２回入試〈５教科〉志願者：**421** 人

本年（令和８年）度の施策

□ ICT教育環境の整備・充実化
□新カリキュラム・コースの実施
□充実した進路指導体制（非常時に備えたオンライン授業・コーチング・学習アドバイザー・高大連携授業）の構築・実施・検証
□よりよい外部施設・部活動指導員や外部指導員の確保と制度整備
□キャンパス再開発に向けての準備
□５教科入学者の追跡調査

達成後の姿（令和８年度）

[教育の質] 新たなカリキュラムによって、生徒が望む進路の実現に貢献している。国公立大学受験にも十分対応できる教育内容が中学生や保護者等に認知され、その地位が確立している。
[学生生活支援] 外部施設確保や外部指導員の導入が部活動の活発化を促し、生徒の主体性やリーダーシップを育んでいる。
[学びの場] 防災や環境、生徒のニーズに合った新校舎の基本構想が決定し、着工している。

最終評価指標（令和８年度）

学習面満足度：**80**%
生徒受信端末タブレット保有率：**100**%
外部施設確保：**完了**
一般第３回入試〈５教科〉志願者：**300** 人

戦略 5

生徒および教職員が安心して過ごせる、環境づくりと危機管理を意識した協力体制の強化

戦略達成のストーリー

安全・安心な学校生活を送るためにも、今後予想される災害や感染症の対策などについて、正確で有益な情報や物資を調達し、準備や工夫をしていく。また、外部の専門家等による研修やケアを受けられる体制を整え、教職員が安心して働けるように環境を整備していく。

現在の姿

[教職員組織] 女性カウンセラーを迎えたことで、生徒のみならず教職員が抱える課題を支援する制度がより充実した。また育児に関する諸規程が整備され、女性男性共に育児に参加しやすい環境となった。

[生徒・教職員支援] 休校に備えたオンライン授業の整備を進めた結果、令和７年度は３回実施した。これにより、授業支援が一段と進んだ。

現在の指標

感染症等の危機事象への事前対策：**対策 4 年目段階**

オンライン授業体制：**実施 4 年目段階**（3 回実施）

校内での研修実施回数：**3** 回

教職員研修満足度アンケート：**55.6**%

本年（令和８年）度の施策

□教職員間の協力体制強化

□ H5N1 型新型インフルエンザ等感染症に関する情報収集および物資等の準備

□情報セキュリティー・災害対策整備

□女性カウンセラーの導入も含めたメンタルヘルスケア体制強化

□柔軟な就業形態・環境の推進

達成後の姿（令和８年度）

[教職員組織] 教職員同士の協力体制とチームワーク意識がより強固なものとなって、業務が円滑に進んでいる。危機管理体制が確立し、生徒および教職員へ安全で安心な環境が提供できている。安全で安心な環境の提供が、生徒や教職員の身体面・精神面を健康にし、良好な人間関係の構築にも貢献している。柔軟な就業形態・環境の提供によって、教職員が働きやすい職場だと感じ取れている。

最終評価指標（令和８年度）

H5N1 型新型インフルエンザ対策の物資の調達：**完了**

休校に備えたオンライン授業の整備：**完了**

校内での研修実施回数：**3** 回

教職員研修満足度：**70**% 以上

戦略 6

国学院高等学校の将来像共有と中学生や保護者への発信

戦略達成のストーリー

教職員は、学校が進むべき方向性を職員会議などにおける学校長からのメッセージや教科会議、分掌会議を通じて理解し、共有する。その共通意識を、教職員は学校説明会をはじめ、あらゆる募集活動の中で発信し、本校の教育を中学生・保護者に浸透させていく。

現在の姿

[生徒募集] 中学生やその保護者に向けて説明会や来校機会を拡充し、本校の特色を発信している。認知向上にも努めている。

[教職員組織] 少子化が進行する社会を見据え、教職員は情報を共有し将来像の理解を深めている。

[教育の質] 授業や講習は調査結果を反映し改善を進め、取り組みを強化している。継続的改善を図っている。

現在の指標

学校説明会参加者：**6,721** 人

文化祭来場者：**10,456** 人

高校生活全般満足度：**86.6**%

教職員に対する学校長講話の回数：**15** 回

本年（令和８年）度の施策

□来校型イベントの安定化と１学期からの来校機会（説明会等）の拡大

□卒業生対象学校満足度分析・検証による行事・事業のさらなる改善

□学校長による将来像の周知徹底

達成後の姿（令和８年度）

[生徒募集] 中学生や保護者の訪問機会を的確なタイミングで提供し、来校者の増加が受験生の増加につながるという流れを維持している。

[教職員組織] 教職員間で将来像の共有が日々積み上げられ、中学生や保護者に統一した内容で発信できていることが、本校の教育方針を理解した受験生の増加に貢献している。

[教育の質] 調査分析が検証および改善策に反映され、高い満足感を持った卒業生を輩出している。

最終評価指標（令和８年度）

学校説明会参加者：**7,000** 人

文化祭来場者：**10,000** 人

高校生活全般満足度：**90**%

教職員に対する学校長講話の回数：**18** 回

国学院大学 久我山中学・高等学校

継続的な進学実績の向上と人格の陶冶を目指して

令和８年度は、前年度に引き続き確かな学力向上を目指し、進学実績の向上に努めます。また、SNS に関連するいじめやハラスメントなど学校現場における諸問題について、生徒自らが問題意識をもって考え、解決できる環境作りを図ってまいります。実際に生じた問題については早期の対応を必須として、組織的な取り組みを継続します。さらに、地域住民に愛される学校になるべく、登下校のマナーの向上と啓蒙、通学路の美化や音楽部等のコンサート活動などを行っていきます。

國清　英明
国学院大学
久我山中学・高等学校校長

将来像

主体的に学び、体験することで、多くの出逢いと真のコミュニケーションが実現する学校となる

主体的な学びの場として、BYOD（Bring Your Own Device）による双方向的な授業実践や生活の気風づくりなど、生徒個々の能力を育て上げていくことで、質の高いコミュニケーションの実現を図っていきます。

教育目標

確かな基礎学力と、自立を目指した精神力とともに、互いを認め合い協働する力を育成

- Ｉ…インテリジェンス（知性・知恵）
  確かな基礎学力と体験に基づく問題解決能力
- Ｐ…プライド（自尊・自負）
  ゆるぎない自信と自己肯定感に支えられた自立力
- Ｒ…リスペクト（尊重・調和）
  違いを認め合う寛容な心と互いに協働する団結力

将来像実現に向けた戦略

生徒等関係者の視点

- 戦略 1：『国学院久我山』としての共同体意識の深化による在校生への寄与
- 戦略 2：中高連携のさまざまな活動や学びを通じた、主体的かつ協調的な姿勢の体得

教育・研究プロセスの視点

- 戦略 3：BYOD の導入および学習プログラム・クラス運用の再構築
- 戦略 4：中高一貫教育におけるメリットの最大化
- 戦略 5：地域社会を含めたキャンパス像の構築と安全で安心な教育環境の整備

構成員の自覚と向上の視点

- 戦略 6：新たな『国学院久我山』を創造するという気概を持った協働

戦略 1

『国学院久我山』としての共同体意識の深化による在校生への寄与

戦略達成のストーリー

上級学校への進学だけではなく、社会人となって働くことを見据えたキャリア教育を実践していくために、卒業生のネットワーク構築を急ぐ。また、卒業生への満足度調査を行い、卒業生にとっての「久我山の価値」を明確にし、在校生のキャリア教育に役立てていく。

現在の姿

[交流] 同窓会久我山会では、ホームページをリニューアルし、メールマガジンの配信によって、在校生の日常はもちろん、活躍する同窓生の動向を積極的に発信している。同窓会長に新会長を迎え、役員の世代の交代が進みつつある。また、卒業生が「合格体験談」を通じて在校生と直接語り合い、在校生の進路実現に寄与している。

現在の指標

キャリア教育企画数：**7** 件
新年同窓会参加者：**181** 人
卒業生満足度調査：**75**%
文化祭卒業生来場者：**600** 人（概数）

本年（令和８年）度の施策

□法人各設置校の卒業生等を起用したキャリア教育の新プログラムの実施と検証

□同窓会との連携強化および卒業生ネットワークの構築強化

□卒業生満足度調査結果の検証および活用

達成後の姿（令和８年度）

[ネットワーク] 男女それぞれの特色あるキャリア教育に加えて、男女協働に向けたプログラム提供によって、生徒がキャリアに関する視野を広げている。ホームページ以外からの情報の発信（SNSの導入など）が増え、国学院久我山の情報が広がり、卒業生と久我山のネットワーク強化に情報面から貢献している。各世代の卒業生が在校期間中に考えていたことを把握し、在校生の学びやキャリア教育に反映されている。

最終評価指標（令和８年度）

キャリア教育企画数：**6** 件
新年同窓会参加者：**330** 人
卒業生満足度：**80**%
文化祭卒業生来場者：**1,000** 人

戦略 2

中高連携のさまざまな活動や学びを通じた、主体的かつ協調的な姿勢の体得

戦略達成のストーリー

生徒が主体となり、中高の生徒たちが学年を超えて協力し合い、年間行事や課外活動に取り組んでいける体制を今後も継続して強化していく。クラブ活動（強化５クラブを除く）では、中高６年間を通して活動することを前提として、生徒たちが６年間活動を続けることができる体制を構築していく。

現在の姿

[生徒支援] 昨年度から改訂に着手した生徒会規約に基づき、中学高校生徒会が、その規約の実質的な運用を主体的に推進した。特に文化祭・体育祭といったイベントでは、中学高校相互に連携した実行委員会が、準備から運営・振り返りまで担い、時に高校生が中学生を牽引、支援、助言する場面も多くみられた。また、部活動は文化系を中心に中高連携が進みつつある。

現在の指標

環境美化活動：**9** 回
文化祭来場者：**6,414** 人
文化祭生徒団体主催企画数：**6** 件
中高統一クラブ：**20** クラブ

本年（令和８年）度の施策

□生徒会・委員会活動の中高一貫体制の運用および検証

□部活動顧問の教員を中高で完全統一化（強化５クラブ除く）

□文化祭など全体行事での中高合同活動の実施および検証

達成後の姿（令和８年度）

[生徒支援] 中高合同の生徒会役員選挙や文化祭といった校内イベントで、生徒が実行委員会組織を主体的に動かしている。６年におよぶ協働の環境が提供されることで、学校全体の一体感が一層高まり、生徒が自身の成長を実感できている。６年間の部活動を通じた交流によって、得がたい体験の場が実現し、生徒が自己成長の場として認識するようになっている。

最終評価指標（令和８年度）

環境美化活動：**15** 回
文化祭来場者：**9,000** 人
文化祭生徒団体主催企画数：**12** 件
中高統一クラブ：**20** クラブ

戦略 3 BYODの導入および学習プログラム・クラス運用の再構築

戦略達成のストーリー

BYODを活用した授業を適宜行っていくとともに、日本文化体得や国際理解教育のプログラム内容を充実させていく。また、交換留学制度実施に向けた準備およびCCプログラムを更新し、日本文化を基軸とした国際的人材の育成を図る。さらに年間行事の見直しや、男子・女子の各クラスの学習内容をより魅力的なものとしていく。

現在の姿

[学生生活支援] ST演習は実施内容の精選段階であり、放課後個別学習ルームは中学低学年期の利用強化を図っている。男子一般クラスの改変は学科主任・学年主任と協議の場を設け、進学実績向上を目標にカリキュラム構築の検討を継続する。
[DX/ICT] 学習においては推奨デバイスの活用、リテラシー教育を徹底する。

現在の指標

男子一般クラス名称検討：**76**%
STクラス学力向上プログラム改定進捗率：**85**%
国際理解教育の検証進捗率：**90**%
BYODの授業活用進捗率：**69**%
年間行事の見直し進捗率：**70**%
交換留学生受け入れ人数：**3**人

本年（令和８年）度の施策

- □年間行事について新体制での運用および検証
- □STクラスの学力向上プログラムの検証を受けての充実化
- □男子一般クラスの新名称およびカリキュラムの検証
- □国際理解教育プログラム・日本文化体得プログラムのさらなる充実化（大学のリソースを活用した教育活動を含む）・Global Studies内容検討
- □よりよいBYODの活用
- □総合的な探求活動の実施および検証（生徒自らが課題を設定・教員のサポート体制の確立）
- □交換留学制度の実施および検証

達成後の姿（令和８年度）

[教育の質] 生徒を主体とした各種行事が実施され、行事間が有機的なつながりを持って生徒に提供されている。新たなプログラムやカリキュラムの提供によって、STクラスでは進学実績が向上し、男子一般クラスでも成果が生まれている。日本文化を正しく理解し、共生社会を支える人材を育成するための空間が担保されている。
[DX/ICT] BYODの導入によって、生徒がストレスなく質の高い授業を受けられる環境に移行できている。

最終評価指標（令和８年度）

男子一般クラス改変進捗率：**90**%
STクラス学力向上プログラム改定進捗率：**100**%
国際理解教育の検証進捗率：**100**%
BYODの授業活用進捗率：**70**%
年間行事の見直し進捗率：**90**%
交換留学生受け入れ人数：**2**人

戦略 4 中高一貫教育におけるメリットの最大化

戦略達成のストーリー

強化５クラブ（野球、ラグビー、サッカー、陸上競技、バスケットボール）が今後も全国レベルで活躍できるように、指導体制の見直しと再編を継続的に行っていく。また、定期的な満足度調査の実施と結果に沿った広報活動により、入学志願者の増加を図るとともに、高大連携事業を検討・実施していくことで生徒たちの学力の底上げにつなげていく。

現在の姿

教員の時間数は改善できているが、探究については授業時間数の設定やその内容について検討中である。高大連携事業として、国学院大学および協定校より講師を招き「大学模擬授業」を実施するほか、「研究室訪問」や「進学説明会」も実施している。また、難関大学合格実績向上に向け「ST演習」や「外部講師による進学講演会」を実施している。

現在の指標

強化５クラブ
全国大会ベスト16以上：**0**クラブ
中学受験志願者層偏差値：
男子一般**51** **ST58**・女子**CC50** **ST57**
連携事業年間企画数：**3**件
難関大学への進学実績：早慶上理**92**人

本年（令和８年）度の施策

- □強化クラブの全国レベルの活躍の実現
- □学則定員・入試日程・募集形態における新体制の運用および検証
- □担当授業の持ち時間数の見直し後の実施および検証
- □国学院大学との高大連携事業の強化
- □理系大学との高大連携事業の実施、検討
- □国公私立難関大学への進学実績向上を目指す指導の実施

達成後の姿（令和８年度）

[教育の質] 指導体制の見直しや再編によって、強化５クラブが常に全国大会上位を狙える実力を維持している。全クラス学級編成30人台の教育体制を実現させている。国学院大学や理系大学との高大連携事業が生徒に提供されている。国公私立難関大学への進学実績が伸びている。
[教職員組織] 新たな運用体制が働き方改革を実現させている。

最終評価指標（令和８年度）

強化５クラブ全国大会ベスト16以上：**3**クラブ
中学受験志願者層偏差値：**60**
連携事業年間企画数：**5**件
難関大学への進学実績：早慶上理**220**人
教員の標準持ち時間数：**16**時間

戦略 5

地域社会を含めたキャンパス像の構築と安全で安心な教育環境の整備

戦略達成のストーリー

既存施設と本校を取り巻く法規制の整理と、校舎ごとの新築・改築・改修の区分けを行い、キャンパスマスタープランを策定していく。また、安全で安心できる学びの環境を継続して整備し、教育環境の向上を図るとともに、地域社会から愛される学校を目指し、行政や近隣地域との信頼関係を構築していく。

現在の姿

[学びの場] ICTを含めた多様な教育環境維持整備を目的とした長期修繕計画を更新した。キャンパスマスタープランで抽出された意見を具体化し、法規制緩和の交渉に向けた具体的な資料作成に取り組んでいる。創立100周年に向けて第２号基本金についての協議を実施した。
[地域連携] 地域への施設の貸し出し、行事への参加を通じて関係性が深まっている。

現在の指標

キャンパスマスタープラン策定：**20**%
創立 100 周年に向けた積立金進捗率：**12**%
地域共催行事の実施：**5** 回

本年（令和８年）度の施策

□キャンパスマスタープランの実現に向けた計画着手
□学習環境向上のための改善項目リストアップおよび工事の実施（毎年度における 10 年工事計画の立案と計画に基づく工事実施）
□地域との交流を通じて連携を強化する取り組みの実施
□創立 100 周年に向けた第２号基本金組み入れ計画の実施（～令和 25 年度）

達成後の姿（令和８年度）

[学びの場] キャンパス全体のマスタープランが完成し、令和16年の創立90周年事業が具体化されている。生徒が居心地の良さを感じ、自ら学ぶ力を育みやすい教育環境を提供できている。創立100周年に向けて、事業計画が資金計画とともに検討され、実施に移っている。
[地域連携] 行政をはじめ自治会や地元商店街との良好な関係が構築されることで、地域社会と共に歩める学校となっている。

最終評価指標（令和８年度）

キャンパスマスタープラン策定：**完了**
創立 100 周年に向けた積立金進捗率：**30**%
地域共催行事の実施：**3** 回

戦略 6

新たな『国学院久我山』を創造するという気概を持った協働

戦略達成のストーリー

研修や交流を通して、「国学院」の歴史や目指すところをより深く理解し、法人の一員としての意識を高めていく。また、ICT 教育や DX 構想など、時代のニーズに合わせた職場環境の整備を検討し、最適化を進めていくとともに、定年後の再雇用制度を実現させ、人材の活用および安定した教育環境の構築を推進していく。

現在の姿

[教職員組織] 初任者研修では国学院大学渋谷・たまプラーザ両キャンパス見学を実施し、「オール國學院」の自覚や理解を深めている。また、学科・学年主任、広報部等が中心となって「ルーブリック」の作成を始め、改めて「国学院久我山」のあるべき生徒像を模索している。
[DX/ICT] 部活動経費等の申請業務をワークフロー化するなど、業務の効率化を進めている。

現在の指標

BYOD の授業活用率：**68**%
教職員研修満足度：**80**%
法人内研修会参加率：**0**%
退職者再雇用制度の利用率：**0**%

本年（令和８年）度の施策

□教職員研修のバージョンアップの実施および検証
➡大学への訪問、教職員との交流機会の定着
□法人と連携したDX構想に則った環境づくり（人材育成）、ICT 教育に向けての環境整備の実施および検証
□定年後の再雇用制度などの実施および検証

達成後の姿（令和８年度）

[教職員組織] 教職員が「国学院」への理解を深め、社会変化にも対応できる柔軟な人材であり続けている。教員が自身の築いたキャリアを生かせる人員配置によって、高い教育水準を提供できている。
[DX/ICT] 全員が一丸となって ICT 教育の推進に取り組めている。教職員の業務効率化が、既存システムの「見える化」による把握と理解によって実現している。

最終評価指標（令和８年度）

BYOD の授業活用率：**70**%
教職員研修満足度：**75**%
法人内研修会参加率：**90**%
退職者再雇用制度の利用率：**10**%

国学院大学附属幼稚園

保育サービスの充実と教育強化に向けて

少子化や保育園志向が進む中、保護者の多様なニーズに対応すべく魅力度向上に努めてまいりました。未就園児クラスは実施回数と保育時間を拡充し、預かり保育では外部委託により学習や STEAM タイムを導入することで、園児の体験活動の充実と教職員の業務負担軽減を図りました。今後は、伝統文化の体験や確かな学力・豊かな人間性・生きる力を育む教育を柱に、未就園児クラスや預かり保育の利便性の改善、課外活動の再編を進め、他園との差別化と保育サービスの強化を図り、園児一人ひとりの成長を丁寧に支援してまいります。

小林　育代
国学院大学
附属幼稚園園長

将来像

確かな学力、豊かな人間性、生きる力を持つ子どもを育成する幼稚園となる

伝統文化・行事を経験する機会が減少する中、そこにある想いに触れることや良きものとして捉える心映えは幼い時にこそ大切です。また、生涯に亘る人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であるため、さまざまな体験を通して、情緒的・知的な発達、社会性を涵養し、人としてより良く生きるための力を育成する幼稚園を目指します。

教育目標

思考力、判断力、表現力の基礎や、日本人としての心の豊かさを育む

将来像実現に向けた戦略

戦略 1

豊かな体験を通じた、環境に主体的に関わる資質・能力の向上

戦略達成のストーリー

遊びを通じて、人や環境への関わりを学ばせるとともに、豊かな感性や心を表現できるようにしていく。また、多彩な本物体験により、学びに向かう力や生活向上力を育んでいく。さらに日本文化に触れる機会を通して、伝統文化や行事に対する知識や学びを深め、日本の良さを大切に感じられる心を持つ園児を育成していく。

現在の姿

[園児支援] 活動や行事を通して環境に関心を持ち、意欲的に関わるとともに、のびのびと自己表現ができるように促している。
[保育の質] 主体的に学びや遊びに取り組める環境づくりや法人連携プログラム・小学校との連携を整え、質の向上を図っている。
[教職員組織] 卒園児へのアンケートを実施し、園の教育・保育の成果を把握している。

本年（令和８年）度の施策

□法人連携プログラムの定例化とネットワークの活用
□小学校へと接続する学習の強化
□身近な環境の見直しと整備
□アンケートの実施・検証

達成後の姿（令和８年度）

[園児支援] 園児が自信と他者への思いやりの心を持ち、明るくのびのびと自己表現ができるようになっている。園児が主体性を持って意欲的に学び、日本の良い文化を大切に守っていこうとする感情を身につけている。
[保育の質] 園児が日本人の良さや素晴らしさを学べる環境の中で保育を受けている。
[教職員組織] 卒園児の情報が把握でき、幼稚園の運営にフィードバックできている。

現在の指標

卒園児アンケート回収率：**27**%
伝統文化・行事実施回数：**3** 回（年間）
法人連携プログラム実施回数：**2** 回（年間）

最終評価指標（令和８年度）

卒園児アンケート回収率：**75**%
伝統文化・行事実施回数：**3** 回（年間）
法人連携プログラム実施回数：**4** 回（年間）

戦略 2

子育て支援機能の強化・拡大

戦略達成のストーリー

幼稚園施設を利用している幼児の家庭を対象に、子育てに関する相談をはじめ、情報の提供や親子参加型事業などを推進していく。これらの支援機能を強化・拡大させ、未就園児の子育てをサポートできる幼稚園を目指していく。

現在の姿

[子育て支援] 未就園児クラスの回数や時間の充実、預かり保育の他園との差別化を進めたことにより、保護者の関心が徐々に高まりつつある。また、発達支援の環境を整えている。
[園児募集] 未就園児クラスや園内イベント参加を通して、幼稚園教育への理解が少しずつ広がっている。また、保育園からの転園や預かり保育利用者も増加傾向である。

本年（令和８年）度の施策

□地域の子育て支援の充実化
□未就園児の幼稚園への接続
□発達支援の推進

達成後の姿（令和８年度）

[子育て支援] 未就園児クラスや預かり保育などの充実が評価され、学校法人の幼稚園として、地域社会の教育力の再生・向上に資する役割を果たしている。
[園児募集] 未就園児の保護者が幼稚園教育の重要性や取り組みを理解し、附属幼稚園に預けようとする気運が醸成されている。未就園児クラスへの参加者や預かり保育の希望者が増えている。

現在の指標

入園希望者：**32** 人
未就園児クラス参加者：**22** 人
預かり保育利用者：**24** 人

最終評価指標（令和８年度）

入園希望者：**45** 人
未就園児クラス参加者：**50** 人
預かり保育利用者：**30** 人

戦略 3 各種広報媒体の有効活用による、魅力度・知名度向上

戦略達成のストーリー

国学院大学附属幼稚園の独自性や魅力をさらに高めるための施策を実施していく。また、独自性や魅力の効果的な伝え方を検証し、ホームページやインスタグラムなどを有効活用するとともに、的確かつ効率的な媒体を選択し、広報活動を展開していく。

現在の姿

[広報活動] ホームページやインスタグラム、ポスター掲示等の広報内容や方法を見直し、園の特色や魅力を伝える工夫を進めている。
[子育て支援] 保護者アンケートや園児の興味関心を踏まえ、参加率向上を目指して課外活動の内容を検討し、保育時間外プログラムの充実に取り組む段階である。

本年（令和８年）度の施策

□本園の魅力を高めるための施策の実施・検証
□広報活動の拡充
□ホームページ・インスタグラムの活用
□課外活動における改善策の実施

達成後の姿（令和８年度）

[広報活動] 広報活動の見直しと充実を図ったことで、未就園児の保護者に本園の情報が伝わり、認知度の上昇とともに入園希望者の増加につながっている。
[子育て支援] 保護者や園児のニーズに合ったさまざまな分野の課外教室を提供することで、保育時間外の充実と参加者数の拡大が実現し、園児や保護者からの支持を得られている。

現在の指標

インスタグラムフォロワー数：**461** 人
課外教室参加率：**52**%
課外教室満足度：**51**%

最終評価指標（令和８年度）

インスタグラムフォロワー数：**300** 人
課外教室参加率：**85**%
課外教室満足度：**70**%

戦略 4 教員の資質および専門性の向上

戦略達成のストーリー

これまで行ってきた保育指導の検証と見直しを行い、保育指導を改善し実践していく。また、外部研修会に積極的に参加し、常に新しい知識・情報を蓄積していくとともに、その知見を踏まえた園内研修を実施していく。これらにより、保護者満足度の向上と教員自身の達成感・満足感の獲得を図り、優秀な人材育成へとつなげていく。

現在の姿

[教職員組織] 教員の専門性向上に向け、必要な資質や役割の整理を行い、内部研修の内容や方法の検討と研修体制の基礎づくりに取り組んでいる。
[子育て支援] 巡回相談やスクールカウンセラーとの連携を進め、支援体制の充実を図っている。また、園児一人ひとりの成長に応じた援助の体制づくりを進めている。

本年（令和８年）度の施策

□改善された保育指導の実践
□外部研修会への参加促進
□園内研修の実施・検証

達成後の姿（令和８年度）

[教職員組織] 教員として求められるスキルが明確になり、共有や人材育成を目指した研修制度が確立している。研修成果が教育活動に反映された保育環境の中で、教職員が地域社会から期待される保育人材へ成長している。
[子育て支援] 成長が異なる子どもたちに対応できる療育センターやスクールカウンセラーとの連携が進み、子どもたちの成長援助に貢献ができている。

現在の指標

外部研修参加率：**100**%
国内研修満足度：**57**%
外部研修満足度：**74**%
保護者満足度：**90**%

最終評価指標（令和８年度）

外部研修参加率：**100**%
園内研修満足度：**70**%
外部研修満足度：**70**%
保護者満足度：**85**%

戦略 5

建学の精神・保育理念の共有と就学前教育の重要性と幼稚園の教育力の発信

戦略達成のストーリー

教員の一人ひとりが、建学の精神ならびに保育理念を深く理解するための研修を実施していく。そのうえで、就学前教育（幼稚園教育と家庭教育）の必要性と重要性を、幼稚園からの一方的なメッセージではなく、保護者や保育関係者が共感し、同じ価値観として受け止めてもらえるように伝えられる組織を目指す。

現在の姿

[教職員組織] 園内研修を通して、建学の精神・保育理念について教員間での理解共有を図るとともに、就学前教育の大切さを確認している。併せて、保育内容や指導を振り返り、外部発信につなげる力の育成に取り組む段階にある。また、柔軟で働きやすい組織づくりを目指した環境整備を進めている。

現在の指標

保護者満足度：**95**%
研修満足度アンケート：**65**%
就業満足度アンケート：**68**%

本年（令和８年）度の施策

□建学の精神、保育理念の共有・研修の実施および検証
□幼稚園教育の重要性についての研修・検証・発信
□働きやすい職場づくり

達成後の姿（令和８年度）

[教職員組織] 教職員が自己啓発に励み、本園の教育力について外部発信できる力を持った構成員へと成長し、保護者の満足度維持向上に貢献している。個性を引き出し合いながら、お互いを認め合える教職員であり続けている。取り巻く内外の環境に積極的に働きかけながら、柔軟性を持ち合わせた組織になり、働きやすい職場が実現している。

最終評価指標（令和８年度）

保護者満足度：**85**%
研修満足度：**70**%
就業満足度：**70**%

国学院幼稚園

子育て世代を応援し、教育活動の充実を図る

本園は幼児の主体性を重んじる自発的な遊びを通して、互いに切磋琢磨して育ち合うたくましい幼児の育成を目指しています。昨年度は地域における園の役割を拡充し、園庭の大規模工事を行い安全で魅力的な遊び環境を実現し、地域に開放しました。また、共働き家庭を応援するために横浜市型預かり保育制度の導入など、子育て世代のニーズに迫る経営改善を行ってまいりました。令和８年度は教員の指導力向上のための実践研究および学校評価の導入など、総合的な教育活動の質の向上を目指してまいります。

黒澤　聡子
国学院幼稚園園長

将来像

地域社会から愛される幼稚園となる

建学の精神を基本とした独自のカリキュラムと多彩な課外活動により保護者のニーズに応える保育を実践し、しっかりとした就学前教育を行う幼稚園となり、保護者・園児はもちろんのこと、社会や地域から高い信頼を受ける幼稚園を目指します。

教育目標

生きる力と思いやりを持った子どもを育成する

将来像実現に向けた戦略

園児等関係者の視点

- 戦略1　幼児期にふさわしい体験を通して就学前教育の充実を図り、心豊かでたくましい園児の育成
- 戦略2　国学院ブランドの確立と地域社会および保護者への周知

教育・研究プロセスの視点

- 戦略3　各年齢の発達に応じた保育カリキュラムの構築
- 戦略4　法人設置校のスケールメリットを生かした環境整備

構成員の自覚と向上の視点

- 戦略5　研修制度の確立とコミュニケーションの強化

※「戦略」・「戦略達成のストーリー」・「達成後の姿（令和８年度）」・「最終評価指標（令和８年度）」については、令和４年度より改定しております。

戦略 1

幼児期にふさわしい体験を通して就学前教育の充実を図り、心豊かでたくましい園児の育成

戦略達成のストーリー

グローバル化が進む時代において、多文化共生社会をたくましく生きる園児の育成を目指し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識した教育活動を実践し、小学校教育へのスムーズな移行を図っていく。また、伝統行事や優れた日本の文化に楽しみながら触れることで、挨拶や礼儀作法の大切さを幼児なりに理解できるような園児を育成していく。

現在の姿

[保育の質] 大学が実施する和装デーの参加や清祓の儀式を間近で見るなど、伝統文化を体験したことで興味と親しみが増した。また、英語教育ではカリキュラムの大幅な改善が施され、会話形式の手法を取り入れるなど、実践的なグローバル教育を推進しているところである。

本年（令和８年）度の施策

□就学前教育の実践・ブラッシュアップ

□日本の伝統行事の実施・指導

□年間のカリキュラムの中で各学年に応じた指導（挨拶・礼儀作法・身辺自立）の実施

□グローバルカリキュラムの検証・改善

達成後の姿（令和８年度）

[保育の質] 園児の発達に応じた就学前教育のカリキュラムが実施され、遊びを通して主体性が育まれ、思考力と判断力、豊かな感性と表現力、多様性を受け入れる思いやりの心が育っている。また、日本の伝統行事の大切さを理解し親しんでいる。さまざまな行事や日常の保育を通じて、挨拶や礼儀作法、身辺自立が身についている。

現在の指標

就学前教育カリキュラムの整備：**80**%

日本の伝統行事指導カリキュラムの整備：**80**%

挨拶・礼儀作法・身辺自立指導カリキュラムの整備：**80**%

グローバルカリキュラムの検証・改善：**90**%

最終評価指標（令和８年度）

就学前教育カリキュラムの整備：**85**%

日本の伝統行事指導カリキュラムの整備：**85**%

挨拶・礼儀作法・身辺自立指導カリキュラムの整備：**85**%

グローバルカリキュラムの検証・改善：**整備完了**

戦略 2

国学院ブランドの確立と地域社会および保護者への周知

戦略達成のストーリー

預かり保育の時間の拡大や預かり保育後の送迎バスの運行など、保護者のニーズに合った預かり保育を実現していく。また、ホームページやSNSでの情報発信の工夫や地域園庭開放「ママとなかよし会」の定期開催、保護者や地域の方々を対象とした「子育て支援講演会」を大学との共催で実施するなど地域の子育て支援に貢献していく。

現在の姿

[園児募集] 少子化が進む中で独自性を示し、入園者数を増やす取り組みを行っている。

[子育て支援] リニューアルした園庭を開放することで地域住民や在園児兄弟に向けて安全に遊べる環境を提供している。

[広報活動] リニューアルしたホームページの活用に加え、新たにインスタグラムを開設することで、さらなる向上を図っている。

本年（令和８年）度の施策

□預かり保育の多様化（日数・時間・送迎）

□新ホームページ（SNS含む）の運用開始・ブラッシュアップ

□地域園庭開放「ママとなかよし会」の充実（日数・内容）

□地域・在園児保護者向け国学院大学共催の「子育て支援講演会」の実施

達成後の姿（令和８年度）

[園児募集] 未就園児クラスを含めて年々入園者が増加し、地域に根差した「国学院ブランド」の幼稚園としての評価が向上している。

[子育て支援] さまざまな行事や企画を通して、保護者や地域の方々の子育て支援に貢献することができている。

[広報活動] ホームページやSNSを通じて、保護者および地域の方々に向けて幼稚園の特色や活動を広く発信できている。

現在の指標

新入園者：**21** 人

ひよこ組入園者：**11** 人

ひよこ組からの入園者：**13** 人

ホームページセッション数：**23,823** 件
※令和６年12月17日現在

「ママとなかよし会」満足度：**100**%

預かり保育利用者満足度：**65**%

最終評価指標（令和８年度）

新入園者：**34** 人

ひよこ組入園者：**25** 人

ひよこ組からの入園者：**18** 人

ホームページセッション数：**16,000** 件

「ママとなかよし会」満足度：**70**%

預かり保育利用者満足度：**70**%

戦略 3

各年齢の発達に応じた保育カリキュラムの構築

戦略達成のストーリー

現状では年間指導計画をベースに学年ごとの詳細カリキュラムへの落とし込みを行っているが、学年別の保育カリキュラムを構築し、教育課程に沿った３年間を見通した指導計画への移行を図っていく。また、学年別保育カリキュラムの構築と並行して、DX化やICT環境の整備を行い、ICTを活用したカリキュラムを導入していく。

現在の姿

[保育の質] 策定した学年別カリキュラムの精査を図り、発達に応じた指導内容の確実な実施状況を評価している。
[DX/ICT] 多様な教育活動の情報収集のためにICTを使っている他、本園の教育活動の理解推進のためのツールとしての活用を図っているが、より一層効果的で使いやすい環境整備を目指している。

本年（令和８年）度の施策

□教育課程と学年別保育カリキュラムとの整合性を図り、意図的・計画的な保育を実施

□ ICT教育の実践・ブラッシュアップ

達成後の姿（令和８年度）

[保育の質] 教育課程に沿った学年別カリキュラムが構築され、そのカリキュラムを全教職員が理解し、教育活動を行うことで、園の幼児教育の質が向上している。
[DX/ICT] DX化が進みICT教育環境が整備され、ICTを活用した教育カリキュラムを実践している。また、教職員はICT教育に関心を持ち、常にブラッシュアップも行われている。

現在の指標

学年別カリキュラムの整備：**85**%
ICT 教育カリキュラムの整備：**85**%
DX・ICT 環境（ハード面）：**令和６年度導入完了**

最終評価指標（令和８年度）

学年別カリキュラムの整備：**90**%
ICT 教育カリキュラムの整備：**90**%
DX・ICT 環境（ハード面）：**導入完了**

戦略 4

法人設置校のスケールメリットを生かした環境整備

戦略達成のストーリー

最大のスケールメリットである国学院大学との連携を強化し、人間開発学部の教員による正課・課外活動や大学部会との連携による独自プログラムを実施することで、地域の中でも魅力ある幼稚園として差別化を図っていく。また、法人連携企業とのスポーツカリキュラムを通して、心身ともに健康で礼儀作法を身につけた園児を育成していく。

現在の姿

[連携事業] 法人が連携している企業の協力を得て展開しているスポーツカリキュラムが、保護者から支持を得られている。本事業を停滞させないため、新たな種目の導入を目指し活性化を図っている。
[法人連携] 人間開発学部の学生をアルバイトとして採用することにより連携を深化させ、今後の奨学生採用に繋げられるよう取り組んでいる。

本年（令和８年）度の施策

□人間開発学部との連携強化（奨学生・教育実習・インターンシップ・ボランティア）

□部会連携独自プログラム（正課・課外活動）の実施およびブラッシュアップ

□法人連携による正課・課外活動の実施

□法人連携企業とのスポーツカリキュラムの正課・課外活動の実施

達成後の姿（令和８年度）

[連携事業] 法人が協定を締結している企業との連携がさらに進展し、充実したスポーツカリキュラムが実践されることで、心豊かでたくましい園児の育成に貢献している。
[法人連携] 人間開発学部や大学部会との連携がさらに深化することで、大学教員や大学部会との正課や課外活動が実践され、法人設置の幼稚園として独自の特色あるプログラムを展開している。

現在の指標

人間開発学部学生受入数：**33** 人（延べ数）
部会連携独自プログラム実施回数：**7** 回（２部会）
法人連携活動の実施：**2** 回
法人連携企業との活動実施：**3** 種目

最終評価指標（令和８年度）

人間開発学部学生受入数：**11** 人
部会連携独自プログラム実施回数：**4** 回（４部会）
法人連携活動の実施回数：**3** 回
法人連携企業との活動実施：**3** 種目

戦略 5

研修制度の確立とコミュニケーションの強化

戦略達成のストーリー

園内研修の実施に加え、担当する学年や園実務に必要な研修を実施することで、より効果的に保育の理論を学ぶとともに、保育スキルの向上を図っていく。また、園内では補えない内容については人間開発学部からの支援や外部研修を活用することで、教員一人ひとりの指導力が向上し、積極的に園運営に参画する人材が育っている。

現在の姿

[教員組織] 策定した研修カリキュラムに沿って研修計画を立案している。進めていく中でカリキュラムの検証を行い、必要に応じてブラッシュアップを図っている。

[コミュニケーション] 教職員は日常業務に追われている中でも日々の朝礼や定期ミーティングの時間を有効に活用し情報の共有やコミュニケーションの向上を図っている。

現在の指標

園内研修開催数：**12** 回
園内研修計画の整備：**60**%
外部研修参加回数：**7** 回
研修カリキュラムの整備：**85**%

本年（令和８年）度の施策

□園内研修の見直し

□研修カリキュラム（教材研究・保育方法等）の実践とブラッシュアップ

□保育の専門性を学ぶ研修・研究を励行・成果発表の実施

達成後の姿（令和８年度）

[教員組織] 年齢や年次に合わせた研修カリキュラムが整備され、保育方法や技術など必要な知識やスキルを身につけている。

[コミュニケーション] 業務の改善が行われ、コミュニケーションが密に図れるようになるとともに、教員同士が学んだ知識やスキルなどを互いに情報共有し、学び合いができている。

最終評価指標（令和８年度）

園内研修開催数：**12** 回
園内研修計画の整備：**75**%
外部研修参加回数：**7** 回
研修カリキュラムの整備：**90**%

令和８年度予算概要

1．事業活動収支予算

事業活動収支は当該年度の①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、③ ①②以外の活動、以上3つの活動に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにするものです。

令和8年度基本金組入前当年度収支差額は法人全体で659百万円の収入超過となる見込みです。これから基本金組入額1,400百万円を差引いた翌年度繰越収支差額は12,105百万円の支出超過となる見込みです。

□事業活動収支予算書（令和８年４月１日から令和９年３月31日まで）

（単位：百万円）

		科目	予算	前年度予算	増減	令和６年度決算（参考）
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	14,940	15,101	△161	14,421
		手数料	727	727	0	925
		寄付金	168	173	△5	206
		経常費等補助金	4,380	4,191	189	3,575
		付随事業収入	181	192	△11	218
		雑収入	462	365	97	437
		教育活動収入計	20,858	20,749	109	19,781
	事業活動支出の部	人件費	11,031	11,158	△127	10,529
		教育研究経費	7,731	8,021	△290	6,555
		管理経費	1,456	1,548	△92	1,456
		教育活動支出計	20,218	20,727	△509	18,540
	教育活動収支差額		640	22	618	1,241
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	256	256	0	311
		その他の教育活動外収入	50	50	0	129
		教育活動外収入計	306	306	0	441
	事業活動支出の部	借入金等利息	14	15	△1	6
		その他の教育活動外支出	0	0	0	-
		教育活動外支出計	14	15	△1	6
	教育活動外収支差額		292	291	1	435
経常収支差額			932	313	619	1,676

		科目	予算	前年度予算	増減	令和６年度決算（参考）
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0	0
		雑収入	0	0	0	-
		その他の特別収入	26	33	△7	41
		特別収入計	26	33	△7	41
	事業活動支出の部	資産処分差額	0	1	△1	67
		その他の特別支出	0	626	△626	-
		特別支出計	0	627	△627	67
	特別収支差額		26	△594	620	△26
［予備費］			299	271	28	
基本金組入前当年度収支差額			659	△552	1,211	1,650
基本金組入額合計			※△1,400	△1,268	△132	△1,473
当年度収支差額			△741	△1,820	1,079	177
前年度繰越収支差額			△11,379	△9,576		△9,755
基本金取崩額			15	17		2
翌年度繰越収支差額			△12,105	△11,379		△9,576

※ ■ 第1号基本金｜教育の質向上のために取得した固定資産の価格

（参考）

事業活動収入計	21,190	21,089	101	19,657
事業活動支出計	20,531	21,641	△1,110	18,306

概要

教育活動収支

学校法人の本業である教育研究活動による経常的な収支を表す区分です。教育活動収支差額は教育研究経費の減額等により法人全体で640百万円の収入超過（前年度予算比618百万円増）となりました。一方、修繕費等の増額により国学院大学附属幼稚園、国学院幼稚園では、支出超過となる見込みです。

教育活動外収支

財務活動による収支を表す区分です。前年度予算と同水準を見込んでおり、教育活動外収支差額はすべての部門で収入超過となる見込みです。法人全体では292百万円の収入超過を予定しています。

経常収支差額

経常的な収支のバランスを表しており、文部科学省の「経営指導強化指標」となる数値です。令和8年度は法人全体で932百万円の収入超過（前年度予算比619百万円増）となる見込みです。

特別収支

当該区分は、一時的に発生する臨時的な収支を示すものです。前年度は「賞与引当金特別繰入額」を計上したことにより一時的に支出超過となりましたが、令和8年度は平常化し、26百万円（前年度予算比620百万円増）となる見込みです。

基本金組入前当年度収支差額

経常収支差額と特別収支の合計から予備費を差し引いた金額で、単年度の収支バランスを表します。企業会計でいう当期純利益にあたる数値です。令和8年度は法人全体で659百万円（前年度予算比1,211百万円増）の収入超過を見込んでいる一方で、教育活動収支差額にて支出超過を計上した、国学院大学附属幼稚園、国学院幼稚園の2部門にて、支出超過が見込まれています。

２．資金収支予算

資金収支の内容は、当該年度中のすべての収入および支出の内容と資金の顛末を明らかにするものです。令和8年度予算総額は31,664百万円で、前年度予算対比171百万円減となる見込みです。

収入面では、各種施設工事に伴う特定資産の取崩しによりその他の収入が295百万円増額となる一方、支出面では教育研究経費支出が203百万円減額となる見込みです。

□資金収支予算書（令和８年４月１日から令和９年３月31日まで）

（単位：百万円）

収入の部				
科目	予算	前年度予算	増減	令和６年度決算（参考）
学生生徒等納付金収入	14,940	15,101	△161	14,421
手数料収入	727	727	0	925
寄付金収入	170	175	△5	209
補助金収入	4,394	4,217	177	3,600
資産売却収入	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	231	242	△11	268
受取利息・配当金収入	256	257	△1	276
雑収入	462	365	97	510
借入金等収入	600	600	0	-
前受金収入	2,790	2,840	△50	2,907
その他の収入	2,147	1,852	295	1,701
資金収入調整勘定	△3,288	△3,129	△159	△3,179
当年度収入合計	23,429	23,247	182	21,638
前年度繰越支払資金	8,235	8,588	△353	9,643
収入の部合計	31,664	31,835	△171	31,280

支出の部				
科目	予算	前年度予算	増減	令和６年度決算（参考）
人件費支出	10,526	10,647	△121	10,565
教育研究経費支出	6,009	6,212	△203	4,737
管理経費支出	1,371	1,443	△72	1,348
借入金等利息支出	14	15	△1	6
借入金等返済支出	600	600	0	643
施設関係支出	1,253	796	457	1,106
設備関係支出	347	554	△207	375
資産運用支出	3,032	3,130	△98	3,888
その他の支出	672	600	72	634
予備費	299	271	28	
資金支出調整勘定	△634	△668	34	△610
当年度支出合計	23,489	23,600	△111	22,692
翌年度繰越支払資金	8,175	8,235	△60	8,589
支出の部合計	31,664	31,835	△171	31,280

概要

資金収支特有の内容について説明します。

資金収入について

借入金等収入	大学部門、久我山高校部門にて運転資金にかかる短期借入金を予定しています。
前受金収入	令和9年度入試にかかる新入生の入学金や授業料を指しています。
その他の収入	各種特定資産の取崩収入を計上しています。

資金支出について

借入金等返済支出	短期借入の返済を予定しています。
その他の支出	財務基盤強化のため、各種特定資産への積み増しを行います。

３．収益事業会計

寄附行為に定められた収益事業の予算は右表のとおりです。主な収益は国学院大学北海道短期大学部に係る施設利用料収入57百万円であり、期末には当該収益の全額を学校法人会計へ繰り入れる予定です。

（単位：千円）

科目	予算	前年度予算	増減
営業収益	57,500	57,500	0
営業費用	6,000	6,000	0
営業利益	51,500	51,500	0
営業外収益	30	0	30
経常利益	51,530	51,500	30
学校法人会計への繰入	51,530	51,500	30
当期利益	0	0	0

令和８年度 施設・設備関係主要事業

「中期５ヵ年計画」に基づく令和８年度の施設関係事業、設備関係事業は以下のとおりです。

（１）施設関係事業

部門	事業計画
国学院大学	野球場隣接地購入
	たまプラーザキャンパス野球場改修工事
	たまプラーザキャンパス球技場改修工事費用
国学院大学北海道短期大学部	教室空調整備工事
	正門・通用門　門柱改修工事
国学院高等学校	生徒女子トイレ個室ブース間仕切り伸長工事
国学院大学久我山高等学校	高校グラウンドバックネット工事

（２）設備関係事業

部門	事業計画
国学院大学	教室AV機器改修工事
	たまプラーザキャンパス教室映像機器更新
国学院大学北海道短期大学部	事務局サーバ更新
国学院高等学校	電動リフト
	無線アクセスポイント工事
国学院大学久我山高等学校	生徒用机椅子購入
	インターネット回線接続装置入替
国学院大学久我山中学校	生徒用机椅子購入

［発行日］令和８年４月１日［発　行］学校法人 國學院大學　東京都渋谷区東 4-10-28